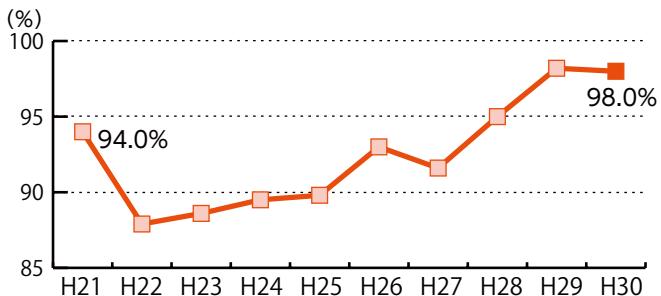


指標でみる財政状況

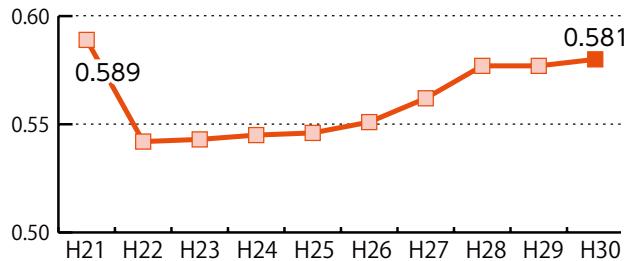
経常収支比率 98.0%

財政構造の弾力性を示す指標で、町税などの経常的な収入が人件費や公債費などの経常経費にどれくらい充てられているかを表しています。平成 30 年度は、地方消費税交付金などの歳入が増加したことなどから、前年度に比べ 0.2 ポイント下がりました。



財政力指数 0.581

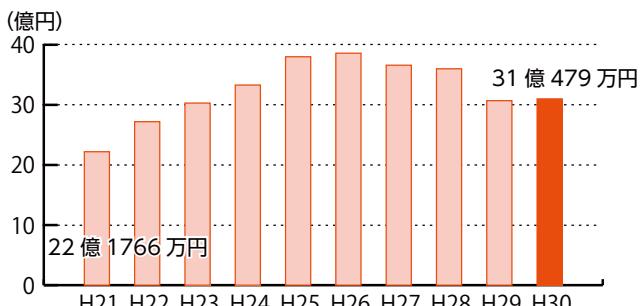
標準的な行政経費に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表すもので、指数が高いほど財源に余裕があることを示します。



基金残高 31 億 478 万 8 千円

普通会計には、純粋な貯蓄といえる財政調整基金や減債基金、また、特定目的のための福祉基金・ふるさと応援基金があります。

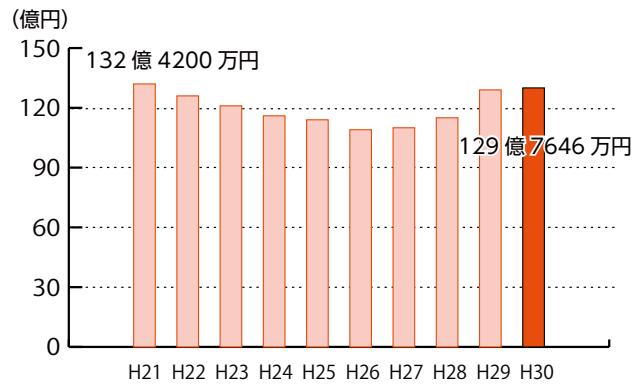
平成 30 年度は、新ごみ処理施設整備に係る町債の返済のために交付された県補助金約 2 億 200 万円を今後に活用するため減債基金に積み立てたほか、財政調整基金を約 1 億 6600 万円取り崩したことなどから、基金全体では前年度に比べ約 3600 万円増加しました。



※普通会計とは、一般会計と特別会計のうち該当するものを合わせた会計で、本町では平成 30 年度は一般会計のみです。

町債残高 129 億 7645 万 7 千円

普通会計の町債残高は平成 16 年度をピークに毎年減少していましたが、新清掃工場などの大型事業の実施に伴い平成 27 年度に増加に転じ、平成 30 年度についても中学校給食施設の整備や幼稚園園舎の耐震化、道路新設改良事業や清掃工場の解体などに町債を活用したことから、前年度に比べ約 1 億 400 万円増加しました。



健全化判断比率

町の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標です。いずれの指標も国の基準を下回りましたので良好な状態にありますが、引き続き一層の財政健全化に取り組んでいきます。

指標	田原本町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	14.01%	20.00%
連結実質赤字比率	—	19.01%	30.00%
実質公債費比率	7.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	76.9%	350.0%	—

※赤字額がないため、実質赤字比率、連結実質赤字比率は「—」表示となります。

用語説明

- ・実質赤字比率…標準的な収入に対する普通会計の実質的な赤字の割合
- ・連結実質赤字比率…標準的な収入に対する全会計の実質的な赤字の割合
- ・実質公債費比率…標準的な収入に対して普通会計が負担する実質的な借入金の返済の割合
- ・将来負担比率…標準的な収入に対して普通会計が将来負担すべき負債の割合

資金不足比率

地方公営企業の資金不足額が事業規模に対してどの程度あるかを示すものです。水道事業会計・下水道事業会計とともに資金不足額がないため該当はなく指標上は問題ありませんでした。

特別会計名	田原本町	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
下水道事業会計	—	20.0%

※経営健全化基準とは、早期健全化基準に相当する基準です。

※資金の不足額がないため、資金不足比率は「—」表示となります。